



遠大勵志

第45回全国高校総合文化祭写真部門

谷地 星さん最高賞「文部科学大臣賞」受賞！



7月31日(土)第45回全国高等学校総合文化祭が和歌山県で開催しました。

昨年の高知高総文祭はリモート開催でしたが、今年は演劇や吹奏楽、合唱、伝統芸能、囲碁将棋、文芸、軽音楽など数多くの分野で全国の高校生の輝く感性が「紀ノ國和歌山」に一堂に会し、新型コロナ禍で沈みがちな私たちの心に「文化の力」で明るい灯をともしてくれました。

そんな中、今年の写真部門で最高賞の「文部科学大臣賞」を受賞したのが、3-3の谷地星さんでした！(以下、7月30日(金)付岩手日報より抜粋)

努力で磨いた感性が、全国舞台で最高の結果を呼び込んだ。31日に和歌山県で開催する第45回全国高校総合文化祭の写真部門で、黒沢尻北3年の谷地星さんが最高賞の文部科学大臣賞に輝いた。フィルムカメラに悪戦苦闘しながらも、あっと驚く巧みな構図。「予想外だったが、先生の指導のおかげ。これまで写真を続けてきてよかった」と、県勢初の快挙に喜びをかみしめる。

谷地さんの「怠惰」は、昨年度の県高校文化連盟スライドフォトコンテストの最高賞で、全国高総文祭に推薦された。

コンテストは銀塩ポジフィルム限定のため、写真部顧問の 達下 才子 実習教諭のフィルムカメラを使用した。

普段は、2年生の時に手に入れたデジタル一眼レフを使用しており「撮影後に画像の確認ができず大変だった」と振り返る。夕方の図書館の薄暗さに対応するため、単焦点の明るく撮影できるレンズを使用した。

さらに空白をつくらないように教科書や眼鏡などを入念に配置。水の入ったビーカーを使ってモデルの両目をゆがませ、受験勉強から逃れたい高校生の心情をユニークに表現した。モデルを務めた写真部の 小田島 杏樹 さん(2年)は「小道具の配置にこだわり、色々な構図を粘り強く試していた」とたたえる。

谷地さんは高校入学後に写真部に入り、本格的に撮影を始めた。イメージする作品が撮影できるまで何度も同じ場所に通う努力家で、自宅がある紫波町や花巻市の宮沢賢治童話村がお気に入りだ。

岩手日報主催の高校生フォトコンテストとキャビネコンテストでは、1席に2回ずつ選ばれ、今年1月の正月読者コンテストでは最高賞の特選。県内の玄人とも競い合う。達下実習教諭は「どうやって撮影したのかと思わせるインパクトがある。発想が豊かで決して妥協しない努力が報われた」とほほ笑む。

岩手日報では、この快挙を受けて「特報」を発行しました(右参照)。

「特報」にも大きく見出しが出ていますが、全国高文祭の写真部門で文部科学大臣賞を受賞した岩手県の高校生は、谷地さんが初めて(これまでの最高は2019年の全国高総文祭で受賞した2位相当の文化庁長官賞)。

今年の和歌山高総文祭には、47都道府県から

岩手日報特報



文部科学大臣賞を受賞した谷地さんの作品「怠惰」。

全国高文祭・写真部門で県勢初



谷地さん

第51回全国高校総合文化祭文化庁、全国高校文化連盟など主催の「写真部門」で、和歌山県北3年の谷地屋さんが、紫波一中出が、最高賞の文部科学大臣賞に輝いた。写真部門で、県勢の受賞受賞は初めて。受賞作品「怠惰」は、受験勉強から逃れたい高校生の姿を写した。同部門には、都道府県から307点が出展された。県勢は近年、放送部門で最高賞の優秀賞を10、20年に受賞、18年には都立芸術専門学校で花巻賞最優秀賞が最優秀賞に選ばれた。同文化祭は31日、和歌山市の和歌山ビッグホールで総合大会を行い閉幕する。写真部門の作品は8月15日に和歌山県立本町の県立本体育館に展示し、4日に表彰式を行う。

谷地さん
(黒沢 尻北)
最高賞

307点の写真が出品されたとのこと。きっとどの作品も、「今」を生きる高校生のまっすぐな「思い」のこもった、甲乙つけがたい素晴らしい作品ばかりだったと思います。その中で、谷地さんの作品が最高賞を受賞した要因は何だろうと、写真が素人の私なりに考えました。

シャッターを切れば誰でも「写真」は撮影できますが、「作品」としての「写真」を撮るためには、素材選び、発想、撮影技術、構図、テーマ、感性といったものに加えて、読解力やコミュニケーション力、社会性や世の中に対する問題意識も必要になってくるのではないのでしょうか。おそらく、谷地さんの作品「怠惰」には、そういったものが高いレベルで凝縮していたのではないかと推察します。

さらに今回の快挙には、「出会いの力」というものも強く関わっていたように思います。

指導して下さる先生との「出会い」、写真を通じてつながった仲間との「出会い」、様々な「出会い」があって、谷地さんはこの素晴らしい作品と出会えたのではないのでしょうか。

黒陵はそのような「出会い」の場です。

さあ！次はあなたの番です。あなたには一体、どんな「出会い」が待っているのでしょうか？